

令和7年度 1学年プレゼンテーションコンテストの概要

1. 目的

- ・国際的な視野を持ち、主体的に考え、探究することができる力を身に付ける。
- ・プレゼンテーションの指導とプレゼンテーションコンテストの実施を通して論理的思考力とプレゼンテーションスキルを身に付ける。

2. プrezentationのタイトル

『横浜氷取沢高校をさらに魅力的にする企画』

3. 取組の流れ

4月	効果的なプレゼンテーションについて考える (TED 視聴)
5月	有名な英語のスピーチからとパブリックスピーキングについて学ぶ レシテーションテスト
6月	横浜氷取沢高校の特色について知り、さらによくするための企画の立案 Situation (状況)・Complication (複雑化)・Question (質問)・ Answer (問題解決案)・Benefit (便益) の構成による原稿の作成
7月下旬	原稿の完成
9月上旬	生成 AI を活用した原稿の修正 スライド資料作成 音声作成ソフトを活用した発音練習
10月上旬	ペア・グループでの発表練習
10月中旬～下旬	プレゼンテーションコンテスト予選 (授業2回分、全生徒が実施)
11月 12日	プレゼンテーションコンテスト決勝 (代表生徒が体育館で発表)

4. 決勝出場者（クラス代表）のプレゼンテーションタイトル（発表順）

107HR My Suggestion To make our school better

103HR Let's get along with exchange students!!

108HR To make Hitorizawa High School even better

102HR Our school's global exchange

101HR For better school lives

109HR Project to improve our school

105HR ~GLOBAL REMOTE~

104HR Our school events will be more exciting!

106HR how to make our school more attractive

5. 評価基準

CS I Presentation Contest Rubric

	Knowledge and Skills	Thinking, Judging, Expressing		A proactive attitude toward learning		
	Grammar & pronunciation	Content	Time Management	Eye-contact	Voice	Memorization
5	No mistakes in pronunciation and grammar. The content is fully understandable.	You describe your plan to make Yokohama Hitorizawa High School more appealing with rich details.	1:30~2:30	Eye contact is natural and equally spread out .	Speaks loudly and clearly.	Perfect memorization.
4	Pronunciation and grammar error are minimal, and there are no issues understanding the content.	You describe your plan to make Yokohama Hitorizawa High School more appealing with details.		Good use of eye contact is delivered. It appeals to the audience.	Speaks loudly.	
3	There are some pronunciation and grammar errors, but they do not significantly hinder comprehension.	You give the audience general information about your plan to make Yokohama Hitorizawa High School more appealing.	1:00~1:29 2:31~3:00	Establish eye contact more than 3 times.	The volume and clarity of the voice is audible to almost everyone.	There are a few unnatural pauses.
2	Pronunciation and grammar errors are frequent, making it difficult to understand the content.	Minimal information about your plan to make Yokohama Hitorizawa High School more appealing.		Eye contact is attempted once or twice.	His/Her voice is unclear for parts of the audience to hear.	There are unnatural pauses four or more times
1			0:00~0:59 3:01~	No eye contact and the speaker didn't appeal to the audience at all.	Their voices cannot be heard audibly.	No memorization. Student needed help remembering their speech.

5. 生徒によるアンケートの結果とまとめ

○夏休み前から準備の始まった「プレゼンテーションコンテスト」への取り組みが、あなたの「スキルや能力の向上につながった」とどの程度思いますか。

そう思う	126(40.6%)	肯定的回答 280(90.3%)
ややそう思う	154(49.7%)	
どちらともいえない	21(6.8%)	
あまりそう思わない	7(2.3%)	
そう思わない	2(0.6%)	

「そのように思う理由」の要約

【肯定的意見】

英語力全般の向上：語彙・文法・長文作成・英文読解などの基礎力が向上したという声が多い。

スピーチング・発音の向上：発音やイントネーション、区切り方を意識するようになり、以前よりスムーズに話せるようになった。

人前で話す力・度胸の成長：大人数の前で英語を話す経験を通して、緊張が和らぎ、自信がついた。

プレゼンテーション技能の習得：話の構成、スライド作成、声の強弱、ジェスチャーなどを意識できるようになった。

主体的な学習姿勢の定着：自分で内容を考え、試行錯誤しながら原稿を作ることで、主体性や思考力が高まった。

練習量による成長実感：繰り返し練習することで「やればできる」と感じた生徒が多い。

英語使用機会の増加による意識変化：英語を「使う」場面が増え、英語への抵抗感が減った。

他者から学ぶ効果：他の生徒の発表を見て表現や構成を学び、意欲が高まった。

AI 活用による学び：添削や発音確認を通して、自分の誤りに気づき、理解が深まったという意見。

【否定的意見】

成長実感が乏しい：「あまり変わらない」「中学時代と大差ない」と感じた生徒も一定数いた。

暗記中心になった：伝えることよりも覚えることが目的になり、スキル向上と結びつかなかったという声。

本番で力を発揮できなかった：緊張や度忘れて、思うように発表できなかった。

準備・取り組み不足：練習量が足りなかった、予選や決勝までの期間が長く、集中が続かなかったという反省。

英語理解の不十分さ：文法や文章構成が十分に理解できていないと感じた生徒もいた。

AI への依存：AI を使いすぎたことで、自分の力になったか疑問を感じたという意見。

【全体の傾向】

多くの生徒が英語力・発表力・自信の向上を実感しており、特に「人前で英語を話す経験」の教育的効果は大きい。一方で、暗記偏重・成長実感の個人差といった課題も見られ、今後は「伝えること」をより重視した指導や振り返りの工夫が求められる。

○「プレゼンテーションコンテスト」によって向上したと思う能力・スキルとしてあてはまるものをすべて選んでください。

課題について自分事として解決策や、よりよくする方法について考える力	109(35.2%)
課題についてわかりやすく、丁寧に聴衆に伝える力	97(31.3%)
1つ1つの英単語を正しく発音する力	139(44.8%)

英文をリズムよく流暢に読む力	134(43.2%)
ジェスチャー・身振り手振りを効果的に使う力	77(24.8%)
英文を暗唱する力	180(58.1%)
多くの人の前で話す度胸・勇気	178(57.4%)
他人の発表を参考にして自分の学びにつなげる力	79(25.5%)
伝えたい内容を論理的に構成する力	78(25.2%)
特にない	12(3.9%)

○「プレゼンテーションコンテスト」への取り組みについてどのように感じていますか。当てはまるものをすべて選んでください。

楽しかった	64(20.6%)
やりがいがあった	121(39%)
苦労した	132(42.6%)
緊張した	146(47.1%)
つらかった	44(14.2%)

○自分の考えを組み立て、英語で発表することにどの程度達成感を感じましたか。

大いに感じた	72(23.2%)	肯定的回答 256(82.6%)
やや感じた	184(59.4%)	
あまり感じなかった	48(15.5%)	
ほとんど感じなかった	6(1.9%)	

○「プレゼンテーションコンテスト」への自身の取り組みを振り返り、最も近いものを選んでください。

非常に頑張った	81(26.1%)	肯定的回答 276(89.0%)
まあ頑張った	195(62.9%)	
どちらともいえない	20(6.5%)	
あまり頑張らなかった	12(3.9%)	
頑張らなかった	2(0.6%)	

○プレゼンテーションコンテスト（各クラスでの一次予選）までにあなたは何回くらい練習をしましたか。

30回以上	38(12.3%)
-------	-----------

20回以上、30回未満	68(21.9%)
10回以上、20回未満	104(33.5%)
7回程度	49(15.8%)
5回程度	34(11%)
3回程度	15(4.8%)

○プレゼンテーションコンテストを終えて、以下の英語の力のうち、今後伸ばしたいと思う力としてあてはまるものをすべて選んでください。

リスニング（聞く力）	158(51%)
スピーキング力（話す力）	236(76.1%)
リーディング力（読む力）	107(34.5%)
ライティング力（書く力）	129(41.6%)
文法力	141(45.5%)
語彙力	134(43.2%)

○プレゼンテーションなどの発表活動は、今後の自分の進路において（例：大学入学や就職など）どの程度役立つと思いますか。

役立つと思う	186(60%)
やや役立つと思う	99(31.9%)
どちらともいえない	20(6.5%)
あまり役立つと思わない	4(1.3%)
役立つと思わない	1(0.3%)

○自由記述欄（抜粋）

- ・プレゼンテーションコンテストを通して、英語力や自分の課題について考える良い機会となった。
- ・暗記していたつもりでも本番で緊張し、うまく伝えられなかった経験から、反省を今後に活かしたいと感じた。
- ・継続して取り組む中で、最初は苦戦していた英作文が次第に楽しいものだと感じるようになった。
- ・他者の発表を聞くことで、自分に何が足りていないのか、また自分のスキルを見直すきっかけになった。
- ・発音、抑揚、ジェスチャー、アイコンタクトなど、伝え方の重要性を強く実感した。
- 上手な発表者のスピーチは流暢で表現力が高く、大いに刺激を受け、来年への意欲につながった。
- ・他の生徒の多様なテーマや考え方触れ、自分の題材選びを振り返る機会となつた一方、

ディスカッションの時間をもっと増やしてほしいと感じた。

- ・人前で話すことへの緊張はあるが、慣れるためには経験を積むことが大切だと分かった。
- ・全体として発表のクオリティが高く、新鮮で有意義な経験であった。
- ・今後は暗唱力や語彙力を高め、より止まらず自然でネイティブに近い英語を話せるようになりたいと考えている。
- ・教員が生徒に過度なプレッシャーを与える、AI の活用など新しい形で準備を進められた点も良かったと感じた。

6. まとめ

今年度、1学年の生徒は「横浜氷取沢高校をさらに魅力的にするための取組」をテーマにプレゼンテーションコンテストを実施した。英語を実際に使う経験を通して、英語力・表現力の向上を図る取り組みとして有意義であった。

アンケート結果からは、多くの生徒がスピーチング力や発音、暗唱力、人前で話す力の向上を実感しており、英語で伝える力が育成されたことがうかがえる。また、他者の発表を通して自分の課題を認識し、学びを深める機会となった点も成果である。

一方で、暗記に偏り十分に力を発揮できなかった生徒や、緊張により達成感を得られなかつた生徒も見られた。今後は、内容理解を重視した指導や振り返り活動、対話的な学習の充実を図ることで、より効果的な行事へと改善していく必要がある。